

(仮称) 富士宮市立郷土史博物館基本計画策定委員会

会議録 (案)

場 所	令和 7 年 12 月 18 日 (木) 15:00~17:00
日 時	富士宮市役所 112・113 会議室
出席者	<p>委員 : 小笠原委員長、北垣副委員長、大高委員、渡井(正)委員、 渡井(一)委員、芦澤委員、高橋委員、諸星委員、井口委員</p> <p>事務局 : 富士宮市文化課 教育部長、中野課長、渡邊、保竹学芸員、松本学芸員、高橋学芸員、柿崎学芸員、原学芸員、三上学芸員</p> <p>オブザーバー : 丹青社 大木、中尾</p> <p>*傍聴 5 人</p>

内 容

1. 開会

	○委員長より挨拶。
事務局	* 12/2 議会一般質問について報告。

2. 議事

(1) 立地について

事務局	* 「博物館の立地について」、「別紙 1 ~ 5」に沿って、庁内連絡会議で検討した立地の方向性について説明。
委員	現状の道路のまま整備を行うのか。道が狭いのでバスの出入りができないのではないか。
事務局	駅前通り沿いの敷地の購入を検討している。大型バスは駅前で乗降し、神田川駐車場に駐車することを想定している。
委員	地下階は設けないのか。
事務局	地下階を整備する予定はない。
委員	代替駐車場は普段どの程度利用されているかについて調査し、今後、実際に利用可能な台数を把握しておく必要がある。
事務局	規模が大きく、敷地に近い駐車場を借りることができればと検討している。
委員	バスで来た小中学生の乗降時の安全上の対応を検討してほしい。
事務局	市の専門技術職の協力を得て、安全確保に配慮して整備を行う。
委員	近くのコインパーキングをよく利用するが、駐車場に困ったことはないので、民間駐車場との連携で問題ないのでないか。
委員	3 階建ての計画となっているが、階高の制限はないのか。
事務局	法規上の制限はないと確認済みである。

委員	市で、別途に駐車場を借りて提供する必要はないのではないか。 土地を購入してバスをとめられるようにするのか。
事務局	そこまでは考えていない。バスは道で人を降ろすことを想定。
委員	候補地は、きらら駐車場で決定なのか。
事務局	今後の予定としては、資料4に記載の通り、11～1月を立地検討期間としている。1月に立地候補地の市民説明として、きらら周辺の住民の方、きらら利用者を対象に説明会を予定している。複数候補地のうち市としての案を一つに絞るが、市民説明会にて意見を聞いた上で決めていきたい。第5回目策定委員会にて、立地に関する記載を加えた基本計画案を提示して、ご報告したい。
委員	きららの職員と新博物館の職員の駐車場の確保も必要ではないか。
事務局	現在、きららの職員はきららの駐車場を利用しておらず、影響はない。新たな駐車場用地の購入は検討していない。すでにあるものを利用ていきたい。
委員	3,000 m <sup>2</sup> のうち 2,000 m <sup>2</sup> を駐車場に当てるとのことだが、60台駐車スペースが入るのか不安だ。博物館機能として、建物本体以外の外部スペースの面積も必要なのではないか。博物館ができて爆発的に来館者数が増えることも考慮しておいてほしい。
委員長	交通に関する懸念事項については、他の部署とも連携して十分に検討すべきだ。
委員	昔の第一劇場の通りが渋滞してしまうので、駐車場の入り口を変えてほしい。
事務局	駅前の渋滞については、あまり発生していないことを庁内連絡会で確認済み。他の道への影響は確認する。庁内連絡会では、道路だけでなく、都市計画の部署もあり、ハード面や条例の確認を行っているので、引き続き各方面を確認しながら整備に努める。
委員	総合計画では、「門前町」ということばが示されているが、本施設もそうなるのか。まちなかには門前町にそぐわない建物もある。富士山表口のイメージでデザインを工夫してほしい。
委員長	色調等を工夫し、景観と合わせていくのはどうか。 メンテナンスも考慮したほうがよい。
事務局	今後の検討による。 デザインも何種類か考え、費用も含めて身の丈に合った、富士宮らしい建物というのを考えしていく。
委員	博物館の目標とする集客数を示して、商店街に説明していくと良いのではないか。それだけ人が来るようになるということ。
委員	世界遺産センターの集客状況はどうか。
委員	正確ではないが、初年度は30万人、コロナ禍を経て現在は10万人以上、20万人には届かない程度だろう。
委員	来館は土日が多いのか。
委員	インバウンドは平日でも来館している。 神田川駐車場に大型バスを止めて、館まで歩いてくる。きらら駐車場を候補地とする場合は、道沿いにできればよいが、少し離れたところもいいので、大型バスの乗降場所を確保することが望ましい。

委員	<p>以前働いていた県立博物館では、平日は学校団体、土日に家族連れで年間 13~15 万人くらいだった。県立だが、現在の想定規模と同規模なので、目標とするのは年間 10-13 万人程度だろう。人口規模や学校の数にもよるので、ざっくりだが年間 7-8 万人程度かもしれない。市の博物館にはインバウンド観光客はあまり来ないと考えておき、学校利用を重視した方が良いと思う。学校数から来館者数を算出する。市外からも来てもらう。土日は子供・家族を中心に考える。</p> <p>商店街と連携して、子どもたちと商店街を探検するプログラムを行ったことがある。商店街の面白い人材を探して、連携したプログラムを展開するなど、商店街の歴史文化資源との回遊は工夫次第で予算をかけずにできる。子供たちと考えてもよい。地道な取り組みをコツコツやっていかなければ成果はでない。市の商工・観光部署とも連携して持続的な取り組みを行ってほしい。</p>
委員	静岡市歴史博物館は静岡浅間神社との連携を行っている。富士宮市の博物館として浅間大社と連携の可能性もあるのでは。視野に入れてほしい。浅間大社の宝物に刀剣があるが、借用・取扱いに専門の学芸員が必要になる。また、市内博物館と連携してやっていく。
委員	世界遺産センターは静岡県に限らず全国にあるが、地元の歴史を概観する機能を持つのは、公立の博物館であり、お互いが補完性を持っている。富士宮市も世界遺産センターに近接するということを生かしつつ、内容で勝負して集客拡大を目指してほしい。浅間大社とも連携を。
委員	委員会としても都市型の博物館を整備する方向性で進めるとしてよろしいか。
委員	よい。
委員	市には、候補地をきら駐車場にすることについて、周辺住民への説明会で意見を聞いたり、駐車場への対応を行ったりするなど、周辺住民の合意を得ながら丁寧に進めることでお願いしたい。

## (2) 展示計画（案）

事務局	* 資料 1 「展示計画 検討資料」を説明。
委員	ユニット式の展示はどのようなイメージか。
事務局	旧村ごとにユニットを作る想定。ベースは作るが、中の情報は更新できるようにしたい。
委員	使っていないユニットの保管スペースについては念頭において検討すべき。巡回展を呼ぶような場合には広い展示スペースが求められる。企画展示室と常設展示室のスペースを柔軟に使えるようにしている事例もある。バックヤードスペースは取りたいのに作れないということになる傾向があるので、限られたスペースを有効に使うことも視野に入れながら今後の展示計画や設計を進めていくと良い。
委員	総合展示の『歴史や文化を体感できる』とは、具体的なイメージはどういうものか。
事務局	模型や資料、プロジェクションマッピングを使いながら、映像や音などで体感していただくことを想定している。
委員	世界遺産センターでも活用されているが、修正等のランニングコストも含めて検討が必要である。見た目だけでなく意味のある展示にできるよう、最初に慎重に検討することが重要である。「現在の富士宮市の姿」についても、変化することが前提なので、修正のコストも見込んだ方がよい。

委員	科学館に所属していたことがあったが、開館して20年後に故障が起きた際、修理や再製作が難しいことも多々あった。必要なものを精査してランニングコストを考慮して手法を決めていってほしい。
委員	Wi-Fiを整備して、QRコードで情報を取れるようにするとよい。
委員	サテライト展示を周知活動で使用している館を知っているが、展示セットが大きく、自治体側で持ち運びができないため、業者に都度依頼している。整備の際はその点も考慮してほしい。

### (3) 管理運営計画（案）

事務局	* 資料2「管理運営計画（案）」を説明。
委員	指定管理者制度を導入した場合、民間事業者への指示系統がうまく動かなくて困っているという話を聞いたことがある。色々なケースを調べられたほうがよい。 また、文化財に精通した市の学芸員がずっと担当できるのが望ましく、短い期間で異動するようなら指定管理者とあまり変わらない。
委員	文化課の中に入っているが、文化課としての文化財保護の管理も担う、ということか。
事務局	そのように想定している。
委員	入館料の問題について、県や市の施設の入館料は増える方向となっている。登録博物館としての基本的な考え方としては、入館料はとってはいけないとされているものの、運用に合わせて設定することが前提とはなっている。入館料は小中学生等を対象に減免して企画展を有料としているところが多い。入館料を徴収して何に充てるかを検討しない限り、取らない方向がよいのでは。県立と市町村立て対応が二極化している状況である。市として対応を考えるべきで、他館に倣う必要はない。
委員	入館料の判断は難しい。最終的には行政判断かと思う。ただ、どこまでを有料・無料にするのかを確定してから設計に入ってほしい。有料・無料の設定によって、区切る動線計画に大きな影響が出る。企画展のみ有料にするのか、全面無料、全面有料等、後から変えることは実質できないと考えるべき。富士市は有料から無料になった珍しいパターン。
委員	開館時間について、平日は遅い時間まで対応できると利用できる方が増える。まちなかにある博物館では9時まで開館しているという事例もある。
委員	指定管理のエリアは20~21時まで開館し、行政職員管理エリアは17時に閉館するケースがある。
委員	実際に延長したものの、ほとんど来館者がいないということもあった。きららで事足りるのであれば、無理に開ける必要はないかと思う。
委員	世界遺産センターも4~8月の17時以降は開館しているが、正直、来館者は少ないのでやめるかどうか議論になることもある。来館者数のデータ提供も可能なので、参考にして検討いただきたい。

### (4) 事業推進計画（案）

事務局	* 資料3「事業推進計画（案）」を説明。
委員	収蔵資料データベースの基本になるようなデータはないのか。
事務局	分野ごとに分かれたり、様式がバラバラであったりする状態のため精査が必要。

委員	データベースの整備は急いだ方が良い。設計にあたっても重要な情報であり、また、「市民とつくる」ということで市民への情報提供も必要。タイトなスケジュールで大変かと思うが、基本設計は業者丸投げはせず、市の担当者が積極的にかかわって作成してほしい。
委員	博物館のホームページについても、整備後は市のホームページとは別のものを作った方がよい。
委員	データベースの容量の問題があるので、市のHPでは収まらないだろう。可能であれば、博物館独自のHPを用意してほしい。そのデータベースも展示の一つという考えならば、館内にWi-Fiを整備してPCで閲覧できるようにするなども行ってほしい。
<b>(5) 今後のスケジュール</b>	
事務局	12月中に候補地を1ヵ所に絞る。1月中に住民説明会を実施し、意見を踏まえて2月に市が候補地を決定、候補地を含めた素案を委員会に報告の上、市議会にも報告し、3~4月にパブリックコメントを実施予定。令和8年5月の第6回の委員会に最終的な計画書を提出・報告し、策定予定。 次回の委員会では、候補地と概算費用を報告予定。